

[年度] 平成22年度和歌山県農林水産総合技術センター研究成果情報

[成果情報名] 大果種トウガラシ品種の果実特性と収量性

[要約] ‘甘とう美人’は食味が良く、尻腐れ果の発生率が‘松の舞’よりやや低く有望と思われた。‘福耳’は辛味の発生が多い、‘ししピー’は食味が悪い‘緑鯨’と‘万願寺とうがらし’は可販果収量が少ない等の欠点が明らかとなった。

[キーワード] 大果種トウガラシ、品種比較、収量、食味

[担当機関名] 農業試験場 栽培部

[連絡先] 0736-64-2300

[部会名] 野菜・花き

[分類] 指導

[背景・ねらい]

岩出市で栽培されている大果種トウガラシ（品種：‘松の舞’）は、夏季高温時の尻腐れ果が多発し問題となっている。そこで、市場性と生産性の高い優良品種を選定するため、現在市販されている代表的な大果種トウガラシ6品種について、果実特性及び収量性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. ‘甘とう美人’は風味が良く最も食味値が高いが、辛味が若干発生し、尻腐れ果の発生がやや多い。
2. ‘福耳’は果実が最も大きく、果色が薄く、辛味の発生が最も多い。尻腐れ果の発生は最も少なく可販果収量が多い。
3. ‘緑鯨’は果実が最も細く、辛味の発生はない。尻腐れ果の発生が多く、可販果収量が少ない。
4. ‘ししピー’は果実が最も短く辛味の発生はないが、果肉が薄くピーマン臭が強かったため食味値が低い。尻腐れ果の発生は少なく、可販果収量が最も多い。
5. ‘万願寺とうがらし’は果実へのアントシアン発生があり、その他規格外果が多い。可販果収量は少ない。
6. ‘松の舞’は果実が最も太く、辛味が若干発生する。尻腐れ果の発生が最も多い。

[成果の活用面・留意点]

1. 本試験は砂壤土で実施した。

[具体的データ]

表1 大果種トウガラシ品種の果実特性

品種	果長 (mm)	果径 (mm)	果径/果長	辛味値	食味値
甘とう美人	139	25	0.18	4	3.5
福耳	146	24	0.16	27	2.8
緑鯨	136	18	0.13	0	2.9
ししビー	117	27	0.23	0	2.8
万願寺とうがらし	141	22	0.16	0	3.0
松の舞	129	28	0.22	2	3.0

注) 果長及び果径: 6月10日、6月24日、7月8日の各日に10果調査した平均値
 果径: 果実肩部の直径
 辛味値: 6月10日、6月24日、7月8日の各日に10果調査した合計値、辛味なし(0)~やや辛い(1)~辛い(2)
 食味値: 果実を炭火焼きしての官能評価(8月2日)、「松の舞」を基準(3)として5(優)→1(劣)の5段階評価(20名平均値)
 耕種概要: ビニールハウス半促成栽培、2010年3月18日定植、畝幅160cm株間60cmの1条植え、基肥N34kg/10a、追肥N5kg/10a、主枝4本仕立て



(丸種)
 松の舞
 (タカヤマシード)
 万願寺とうがらし
 (サカタのタネ)
 ししビー
 (愛三種苗)
 緑鯨
 (サカタのタネ)
 福耳
 (タキイ種苗)
 甘とう美人

図1 大果種トウガラシ品種の果実

表2 大果種トウガラシ品種の収量特性(5月10日~7月29日)

品種	総収穫果		可販果		障害果				尻腐れ果率 (個数%)
	収量 (g/株)	個数 (個/株)	収量 (g/株)	個数 (個/株)	尻腐れ果		その他障害果		
					収量 (g/株)	個数 (個/株)	収量 (g/株)	個数 (個/株)	
甘とう美人	3,369	173	2,336	118	563	29	470	27	17
福耳	4,016	180	3,111	137	67	3	839	40	1
緑鯨	2,657	234	1,219	78	680	47	758	110	20
ししビー	4,067	190	3,125	140	159	7	783	44	4
万願寺とうがらし	2,578	188	1,000	56	286	18	1,292	114	10
松の舞	4,059	169	2,728	111	913	38	417	20	22

注) 可販果: 上物果と下物果の合計
 その他障害果: 尻腐れ果を除く出荷不能の障害果
 尻腐れ果率: 総収穫果個数における尻腐れ果個数の割合
 耕種概要: 表1注のとおり

[その他] 研究課題名: 特産野菜の優良品種と系統の育成と選定

予算区分: 県単

研究期間: 平成21~22年

研究担当者: 奥野憲治、田中寿弥

発表論文等: なし

H P 掲載の可否: 可